

## 第二十四回企業活性化研究分科会・議事録

〈第二十四回 2009年9月27日(土) 13:30~17:00 於：専修大学(神田校舎)〉

1. 参加者：山本、太田、大野、木村、渡邊、横山、高市、菅原、宮川、斉藤、酒井、杉本

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『継続企業の前提に関する分析(TYPE2)』

- ・ 報告者：太田三郎
- ・ 配布資料：分析資料 12 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社メディビックグループについての継続企業の前提を分析したものである。同社は、個人の体質に合わせた薬の開発や病気の治療だけでなく、予防・健康管理まで、体質に合わせた医療及び健康生活の実現を目指すことを企業理念とし、革新的なサービスを提供することを方針として活動している。同社を分析した結果、利益が出ない体質、無配の継続、自己資本比率のみ高い、適度に株が流通している、資産に対して負債が少なく債務超過にならない、といった特徴があげられる。その為、継続企業の前提をかいくぐって存続していると結論付けられる。

- ・ 報告者：宮川宏
- ・ 配布資料：分析資料 8 枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社トーヨーアサノについての継続企業の前提を分析したものである。同社は、コンクリートパイプとヒューム管の製造販売を目的として誕生した企業である。同社は、日本経済状況の悪化による需要の減退、販売価格の下落により収益を圧迫していった。しかし、中期3カ年経営計画の策定・実行、販売事業の一体化による経営効率の改善等による構造改革により、企業体質の強化と業績の安定に向けた取り組みがなされた結果、継続企業の前提に関する注記が付されなかったものと考えられる。

4. その他

次回の日程

- 11月21日(土) 専修大学神田校舎

(文責：酒井友也)